

平成18年度(第60回)



俳聖松尾芭蕉の業績をたたえ遺徳を偲ぶ「平成18年度(第60回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像・文学碑への献花・献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地および世界各国から一般の部に1万2472句、テーマの部に2410句、児童・生徒の部に1万9671句、連句俳句に197巻、英語俳句の部に12万国から432句の応募がありました。各部門の特選句と一般の部で入選された市内の方の句を紹介します。

一般の部 特選

有馬 朗人 選	山寺の岩の明暗十三夜	東京都市東区	針ヶ谷里三
太巻の海苔の浅草鳴雪忌	東京都足立区	松島 大地	
稲畑 汀子 選	掃き寄せて落葉を元の樹に戻す	埼玉県大里郡妻沼町	田島 良生
茨木 和生 選	名前さへ消えて露けき母郷かな	大阪府枚方市	石橋 玲子
鮭五郎 匍匐前進してゐたり	時鳥二日つづきの夜伽かな	北海道札幌市	小山 耕昭
宇多喜代子 選	地球円し一キロ先は陽炎える	奈良県桜井市	水野 露草
青芒「叢」ごとに風の神	岡崎 光魚 選	北海道北広島市	栗原 三峰
長雨に孕む蝙蝠地に墜ちし	こゑつなぎ霧の吊橋渡りけり	福岡県北九州市	水口 茂
鎌和田柚子 選	暮啼きて闇の深まる一探の野	伊賀市上野田端町	矢谷 和子
金子 兜太 選	深山路や神慮のごとく村に遭ふ	福岡県北九州市	松尾 信也
倉田 紘文 選	痩せてゆく地球よ夏草を刈れば	愛知県岡崎市	戸松つたへ
銀色の句帖のカバー風光る	端正に風やり過ぎす夏桔梗	伊賀市三田	西田 誠
職辞して余白の多き日記果つ	汗滲む美田を守る老いの背	石川県金沢市	諸 青郎
西村 和子 選	陶工の砥めて確かむ春の土	伊賀市阿山ハイツ	喜多 富美
長谷川 權 選	ダイヤモンドダスト音楽堂包む	津市	大橋 泰子
星野 椿 選	かの夏目雅子のごとき夏の空	北海道札幌市	高崎 常子
幽玄の能に浸りし良夜なる	大桜見て来て灸をすゑにけり	千葉県市川市	杉森日出夫
村百戸長寿の里や麦熟るる		熊本県菊池市	坂本まつえ
		伊賀市西山	岡田 節
		伊賀市沖	藤井 光子

皆川 盤水 選

木綿注連をかけ天界の雪を踏む 東京都町田市 瀬戸 久子
 猿蓑の塚越えてゆき栗の花 伊賀市上野丸之内 池住 律子
 宮田 正和 選
 荒潮の水尾引き戻る鰹船 沖縄県南風原町 西銘順二郎
 ざら紙の露けきかるさ砲車抄 伊賀市平田 福山 良子

森 澄雄 選
 お斎峠老鶯雲を出でず鳴く 伊賀市森寺 橋本千代子
 土間に井の遺る翁家かまどうま 兵庫県姫路市 小坂佐紀子
 森田 峠 選
 ぶつかり来しは玉虫輿社道 福岡県直方市 佐藤 綺峰
 鰹漁始まる土佐の海荒し 大阪府豊中市 鏡原 敏明

【テーマの部】 テーマ『雲』
 片山由美子 選
 天窓に雲の流るる春焔かな 福岡県大牟田市 坂井たづ子
 アンデスの峰より湧きし夏の雲 ブラジル 前田 昌弘

英語俳句の部 特選

加藤 耕子 選・訳
 Father's Day—I turn the final page of my dead son's diary.
 (父の日や逆縁の子の日記閉る)

In the autumn field the bicycle is changing into the wind.
 (野路の秋自転車風となりゆけり)
 東京都 キク・ハラ (Kiku Hara)

児童生徒の部 特選

保育園・幼稚園及び小学校一〜三年
 永井みよ・東構東子・福山良子・松永幸星・横田綾市(五十音順) 共選
 みずでつぼうかみなりさんまでとどくかな 予野保育園 中岡 まひろ
 せみがいたかたぐるましてもとどかない 長田保育園 岩崎 史孔士
 たんぼぼがどろろをわつてさいてるよ 曙保育園 宮本 幸歩
 えだまめはさんいんのりのふねみたい 三田小一年 うえだ まさと
 あせいばいがつこうがえりのへるめつと 府中小一年 いなもと りょうへい
 くわがたはきりぶきするとつのがたつ 友生小一年 きくやま こうすけ
 水牛に引かれてわたる夏の海 名張市 美旗小二年 山本 大介
 つなひきのおわたあとの土くろい 高岡市 東五位小二年 木くら まゆ子



夏休み木ばこでつくるちよきんばこ 上野西小二年 小ざわ かつき
夏の旅ロビーのピアノでひく校歌 津市 大井小三年 森ざわ みずき
かいらんばん昼ねの家へそととおく 猪田小三年 菊山 竜輔
ブナの森太い木細い木セミなかせ 秋田県八峰町 埴川小三年 藤田 涼佑

小学校四〜六年

川浪玲子・北村保・北村みち・佐々木経子・葭葉悦子(五十音順) 共選
犬の鼻蚊取り線香見て動く 津市 三重大学教育学部附属小四年 吉川 海音

夏空にひびく宣誓ほくの声 シヤボン玉未来がうつる双眼鏡 桑名市 大山田西小四年 浅野 敬恵
こいのぼりわたしの家はちいさいよ 鳥取県 船岡小五年 浅尾 夏帆
とどくかな入道雲にキックオフ 西柘植小五年 東出 功

炎天下母といっしょに化石見る 上野西小五年 鷹野 夏海
琉球の新聞包みパイナップル 三田小六年 稲森 末悠
十二湖の水へひびくせみの声 秋田県八峰町 埴川小六年 佐藤 夏美

百はあるみの虫あんのせみの穴 久米小六年 小阪 行弘
中学校及び高等学校 谷本昌子・西田誠・浜地和恵・藤井充子・山村勝子(五十音順) 共選

はやばやとページを閉じる星月夜 緑ヶ丘中一年 吉川 直人
戦争の展示に涙夏旅行 崇広中一年 橋本 拓男
初登山大雪溪に足すくむ 成和中一年 富本 響

新緑の木々見て渡るかずら橋 緑ヶ丘中二年 園木 秀聡
草原を駆け抜けて行く青嵐 島ヶ原中二年 勝森 亮太
大輪の花想わせる夏帽子 桃青中二年 古市音央太

テニスコート横目ですぎる夏期講習 崇広中三年 浦中 祐揮
炎天下自分の影の上歩く 成和中三年 堀 のぞみ

連句の部 特選

磯直道・岡本耕史・引地冬樹・宮下太郎(五十音順) 共選

◎半歌仙『紫陽草』の巻 徳島市 東條 士郎 捌
紫陽草や帷巾時の薄浅黄 芭蕉翁
風鈴売りの遠ざかる声 東條 士郎

蔵並ぶ河岸を悪童駆け抜けて 岸 宗美
居眠る猫は首をもたげる 小田 智子

望の夜の畳に映るレースかけ 住友 春与
東ねて吊す軒の千振 中東 栄子(表六句のみ掲載)

一般の部 入選

稲畑 汀子 選

月見草開く順位のありにけり 伊賀市下友生 光岡代里子
御ん僧の袖捲りして梅を干す 伊賀市上野丸之内 藤井 充子
思ふこととは別に手は草を引く 伊賀市山畑 北村 みち

茨木 和生 選

砂時計落ちつづけ蝉鳴きつづけ 伊賀市三田 西田 誠
懸藤棚田こより捨てられて 伊賀市朝屋 神尾早智子
新米の出荷広場にある活気 伊賀市西山 岡田 節

岡崎 光魚 選

光琳忌薔薇の切り口火に焦がす 伊賀市西明寺 永井 みよ
雪渓を削ぎ人間の径作る 伊賀市三田 西田 誠
石南花の断崖天に触れてをり 伊賀市上野忍町 新 満知子

観音は一木造り蝉生る 伊賀市緑ヶ丘南町 谷本まさ子
鉛筆で髪かきあげて初桜 伊賀市朝屋 増井 奈美
合歓の咲く峠越え来し陶器売 伊賀市上野車坂町 海保りつ子

先客に灯の点りるをる葭戸の間 伊賀市三田 西田 尚子
鍵和田柚子 選

蝉の庵芭蕉土芳をまぼろしに 伊賀市森寺 喜多 釉子
はつ秋の渡船や竹刀抱く少女 伊賀市柘植町 浜地 和恵
虚子講ず遙かに枯野あればこそ 伊賀市上野桑町 福沢 義男

金子 兜太 選
青嵐やわれは郷里の生き字引 伊賀市上野桑町 福沢 義男

倉田 紘文 選
沙羅の花薬を畳みて落ちにけり 伊賀市緑ヶ丘本町 大野 利江
塩田敦柑子 選

新緑に遺跡撮るへり旋回す 伊賀市緑ヶ丘南町 森本 銀花
被爆地に水の精なる未草 伊賀市阿山ハイツ 浅野さち子
温暖化梅雨荒れ深き爪残す 伊賀市上友田 川瀬 勝子

上向きの景気に沸きしメーデー旗 伊賀市上野田端町 山添 洋子
秋の暮れ過疎の一灯侘び纏う 伊賀市朝日ヶ丘町 長谷川梅香
赤錆の灼けし校門過疎進む 伊賀市比土 中西眞紀子

西村 和子 選
手術痕誇りに生きる更衣 伊賀市上野桑町 芦中 侑子
あたらぎの影が障子に夏百日 伊賀市上野玄蕃町 横田 信子

芭蕉翁献詠俳句

星野 椿 選
 伊賀も奥住めば都や蛙鳴く
 根切虫せつかく育ちたるものを
 歩くには丁度よき距離合歡の花
 昼寝覚遺影の吾子に見下され
 紫陽花の伊賀に要の大佛寺
 伊賀市山畑 山下 久美
 伊賀市平田 中森 皎月
 伊賀市上野丸之内 藤井 充子
 伊賀市西明寺 北田サカエ
 伊賀市四十九町 井上 英子

皆川 盤水 選
 盆地田を火の粉で払ふ虫送り
 修験めき跳で登る湯殿山
 梅干して鈴鹿一日照り翳り
 草引女片膝をつく棧俵
 濃き影を青田に沈め古墳山
 はんざきの腹見せて攀づ水澄めり
 伊賀市緑ヶ丘本町 橋本 理恵
 伊賀市柘植町 中森 文子
 伊賀市柘植町 北田美智代
 伊賀市柘植町 澤井とき子
 伊賀市柘植町 浜地 和恵
 伊賀市柘植町 外山 依子
 伊賀市柘植町 片岡 桂子

宮田 正和 選
 酒好きの男二人や梅雨籠り
 鯉池に花南天の日陰かな
 行く川も四温の雨に濡れてをり
 夏瘦せを言はず看護師採血す
 夕蟬や髪を短くして看取る
 黴臭き雨の夜なり独り酒
 夕顔や鉄屑を吐く町工場
 鉄砲百合剪りて風より離しけり
 秋深し重ね貼りある翁の書
 伊賀市山畑 山下 久美
 伊賀市柘植町 服部登紀子
 伊賀市山出 菊山 時子
 伊賀市上野車坂町 森岡 了子
 伊賀市柘植町 北田美智代
 伊賀市柘植町 富山 文夫
 伊賀市朝家 神尾早智子
 伊賀市上野忍町 河口 良子
 伊賀市柘植町 浜地 和恵

森 澄雄 選
 鈴鹿嶺の風に乗り来る伊賀の雪
 夕端居水撒きてより陽の匂ひ
 庭の草見れば引きたく梅雨晴間
 伊賀市朝屋 田矢みさ子
 伊賀市大野木 中川 榮子
 伊賀市西山 豊住 敏子

「テーマの部」 テーマ『雲』
片山由美子 選
 白雲を蹴つてふらここひるがへり
 雨雲を掃くごと揺れて今年竹
 伊賀市阿保 宮浦 盛信
 伊賀市市部 加藤 恭子

※平成18年度(第60回)芭蕉祭式典の模様は、ケーブルテレビ(17ch)で再放送する予定です。
【問い合わせ】 本庁文化国際課 ☎22・9624

伊賀市の市歌を制定しました

作詞：梅澤 俊紀
 作曲：友永 博志
 伊賀市市歌選考委員会補作

市では、今年6月に決定した伊賀市市歌の歌詞(市広報7月15日号に掲載)に曲をつけるため、7月15日~8月15日の期間、全国に募集を行いました。

その結果、海外からの応募も含め、193人から264件の応募がありました。

専門家も加わった譜面審査の後、伊賀市市歌選考委員会で、伊賀市の明るい未来が想像できる曲かどうか、子どもからお年寄りまで誰もが口ずさめるような曲かどうかなどを中心に、慎重な審査・選考が行われ、次の方の作品が選ばれました。

● 最優秀作品

千葉県 友永博志さん

● 優秀作品

東京都 梅澤俊紀さん

選考委員会からの報告を受け、最優秀作品を市歌の曲として決定し、伊賀市市歌を制定しました。

今後は、式典やイベントなどを通じて伊賀市の活性化のために幅広く活用していきます。

【問い合わせ】

本庁企画調整課 ☎22-9620

Moderato

1. かぜ さ わ や か な こ の ー ま ち は よ も
 2. はく ほ う じょ う を り あ お ー ぎ つ つ そ だ
 3. か わ も ま じ わ り た い ー か い へ し み

の や ま な み ゆ る ー や か さ に
 つ り そ う の け だ ー か さ は
 ん の こ こ ろ あ わ ー さ っ て

やさしく か こむ わ が きょ う ど
 いーまに たつた わ ら ざ と ち え
 みらいの い が し み え て く

いに し え か ら の い が の な に
 は い せ い ま で も よ に い だ す
 へ い わ の そ の と こ し え に

1.2.
 あら た な こ ど う か ん ー じ み る
 ふ る さ と い が は ぶ ん ー か き く

3.
 ね が い は ば た く お お ー ぞ ら へ

ね が い は ば た く お お ー ぞ ら へ